

(一社) 大学女性協会奈良支部主催

## 「奨学応募生のお話を聞く会」の報告

当協会の奨学生として応募されたお二人を奈良支部として推薦させて頂いたが、今年から採用が5名に縮小されたこともあり、残念ながらお二人とも採用されなかった。支部としてはお二人の研究が一層充実発展することを願ってささやかながら励ましの会を以下の要領で開催した。

日時：2026年2月28日(土) 13:30~15:30

会場：奈良県女性センター 講座室

発表者とお話の概要：

○大家佳奈子さま(奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科 博士後期課程2年)

研究テーマ「測地線の有限性に基づく曲線複体の局所幾何の研究」

一見して専門用語が難しく、十分に理解することは困難に思えたが、発表後の質問にも丁寧に応えて頂いた。概要としては3次元球面などの3次元多様体は視覚化や分類が難しい中、大家さんはHeegaard分解(3次元多様体を2つのハンドル体に分ける手法「宇宙の設計図と言われる」)に着目し、曲線複体の局所幾何の解明を追究している。参加者からは「ちょっと難しい!」などの声もあったが、目に見えない物の特性を脳内のイメージを基に解明しようとする研究、すなわち視覚情報が無くても、脳内で構造を把握するという数学領域の認知特性を説明された。「そんな研究活動の中で、研究者間の交流言語はどんなものでしょうか」などの質問があったが、大家さんは「実際に視覚に依らず優れた業績を挙げた研究者の例も知られており、このような背景から、研究者間のコミュニケーションも多様な形で成立している。」とのことであった。学術研究の多様性を認識させられる報告であった。

### 博士課程②

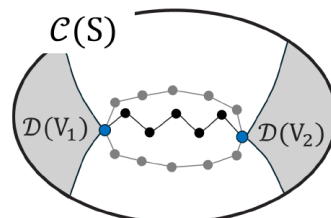
#### 結論

$V_1 \cup_S V_2$  を次を満たすHeegaard分解とする：

- ①  $d(V_1 \cup_S V_2) = 2,$
- ②  $g \geq 3,$
- ③ **quasi-strongly keen**

このとき  $V_1 \cup_S V_2$  は **strongly keen** である

→距離2, 種数3以上の“鋭い”ヒーガード分解において  
測地線の数が1より大きい有限の数となる例は存在しない



目標のヒーガード分解は  
ヘンベル距離が3以上の場合に  
存在すると思われる

今後の課題：  
長さ3以上の測地線を調べること…?

K. Oie, “On quasi-strongly keen Heegaard splittings” (2026)

○松田頼子さま（奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士後期課程3年）

研究テーマ「ドラマセラピーとXRテクノロジーの融合による新しい芸術療法の探求」

松田さんは、即興劇を活用した集団精神療法であるドラマセラピーを、健常者を対象にVR空間で展開するシステムの開発を進めている。具体的には、AIがドラマセラピーセッションのファシリテーターとして機能し、非言語情報を認識・生成する実装を構想している。発表では、VR空間における試みを通して他者への共感に関わる変化が見られたことにも触れつつ、人間関係に困難や疲れを感じた際にこうした技術を通じて対人経験を重ねていくことへの期待も語られた。参加者からは関心や期待の声が寄せられる一方で、現実世界における身体性の重要性や、バーチャル空間への没入の在り方について慎重な意見も出された。



お二人の発表に対して参加者の興味関心が高く、感想や質問が多く出されて終始和やかで有意義な交流の時間であった。

奈良支部から些少であるが奨励金がお二人に渡されて閉会とした。

(文責 平井タカネ)

